

<別紙>

平成 24 年 7 月 25 日

講演会プログラム委員会  
委員長 木戸元之

### 特別セッション 「世界の中の日本の測地学」 開催のお知らせ

日本測地学会第 118 回講演会では、「世界の中の日本の測地学」と題し、特別セッションを開催します。本セッションでは、日本の測地学が世界の中でどのような位置にあるのか、一方、どのような問題を内包しているのか、またどのようにそのプレゼンスを向上させて行くべきか等の議論を行いたいと考えています。詳細なセッションスコープは文末を御覧下さい。本セッションは招待講演のみで構成します。またセッションの最後には議論の時間も設けます。学会員の皆様の積極的な御参加をお願い致します。

セッション名：世界の中の日本の測地学

セッションスコープ：

測地学は、地球科学のほぼ全ての分野と深い関わりを持つ学問である。そして周辺学問分野の発展と共に、測地学が期待される役割も変わりつつある。例えば 2011 年東北地方太平洋沖地震の震源過程の理解においては、それまで技術開発の要素が強かった GPS 音響結合方式による海底地殻変動観測、海底水圧計観測による地震時変動等のデータが多大な貢献をした。これらの成果を受け、例えばプレート境界型地震の理解のための海底地殻変動観測の重要性を指摘する声は日本にとどまらず世界的にも大きい。また衛星測地ミッションでも、日本が得意とする L バンド SAR 搭載衛星である ALOS(だいち)、月面の詳細な重力地図を作成した SELENE(かぐや)等、日本の世界への貢献は大きく、今後の衛星ミッションへの期待も同様に大きい。このような状況で、日本の測地学が周辺分野からどのようなことを期待されているのか、どの様な点が不足しているのかを議論することは、日本測地学会の今後のあり方を考える上でも重要である。

本セッションでは、世界の中で日本の測地学がどのような位置にあるのか、一方、どのような問題を内包しているのか、そして今後どのようにそのプレゼンスを高めていくべきであるか、また、どのように成果を社会に発信していくべきか等について議論を行う。本特別セッションは招待講演のみで構成し、様々な分野において測地学がどのように位置付けにあるかという点に関するレビュー、およびどのようなことが期待されているかについて発表を頂く。セッションの最後には議論の時間を設け、多様な意見を集約する。学会員の積極的な参加を期待する。